



お変わりないことを
切に願う

京都府 山下良道

まことにとんでもない年明けとなつてしまいました。皆様におかれましてはお変わりございませんでしょうか。今年ほどお変わりないことを切に願わずにいられない時もありました。此処昌林寺では、この度の震災による被害は僅かに湯飲み茶碗三個と軽微なものでしたが、神戸の人達を思うととても喜ぶ気にはなれません。

それにしましても今回実に沢山のことを考えさせられました。どうでもいいことが全て崩壊し、一番大切なものがけがくつきりと明らかになつたような。例えば、通常の番組編成を一切止めて震災情報だけを流し続けたテレビですが、三日目ともなると少しづつCMやドラマが入ってきました。そのCMやドラマを見てその余りの下らなさにショックを受けはしなかったでしょうか。こいつら一体なにをやっているのかといったような。法華経譬喩品の火宅のたとえ「諸子等は、火宅のうちにおいて、嬉戯に樂著して、

覚らず、知らず、驚かず、怖れず、火は来たりて身に逼り、苦痛は己に切れども、心に厭わずして、出ずること求め意なし。幼い子供たちが燃え盛る家のなかで、玩具に心奪われて嬉々として遊び戯れてるすがた。私自身何度もお説教の中で使ってきた譬え話ですが、今回ほどまざまと其を實際に見たことは有りませんでした。燃え上がる神戸の街を写した直後にCMになり、そこに登場する能天気な人々。それはもはやグロテスクとさえいえるものでした。しかし考えてみると、燃え上がる神戸の光景と同じ程悲惨

な映像を我々は今までも見てきたはずで。ボスニアばかり、ルワンダばかり、そして最近ではチエチエンと。とはいえ正直に申して私には彼らの苦しみを自分のものとして受け止めることは出来ませんでした。今回自分自身が恐怖を味わったあと、映像の中の人々の苦しみを、はじめて自分のものとするのが出来たのです。ということは、私自身火宅の中で遊び惚けていた子供だったと言うことです。そして更に考えれば、運良く今回は震災からは逃れはしましたが、我々が住むこの火宅はやがては焼け落ちるのです。

その火宅から本当に出ずる方法とは、是はもはや単なる地震対策ではすまないわけですからして又私一人がそこから逃れたとしても全く意味が有りません。この世の生きとし生けるものすべてのものと一緒にこの火宅を出る。大乘の菩薩として、それを是からの誓願として生きていきたい。今回亡くなった五千人の人達の冥福を祈りつつ、そのことを強く強く思っています。

『成寿』から色々な
昔を思い浮かべ…

長野県 池沢悦二

今を去る十一年前、黒田方丈は「一食を善光寺に布施して下さい。其の布施を大切に使用させていただき、有為な青年僧を海外に留学させたい」と切々と訴えられました。私は何人位の青年を留学させたのかと尋ねると、最低五〇名だとはつきり申されまして更に其の中で五人位しっかりした人が生れれば本望ですとつけ加えられましたが、現在では世界十七ヶ国六十一名の

留学僧が出来てしまいました。一日一日の努力の偉大さに、只々頭の下がる思いがいたします。

昨日茶人の田中清氏から電話があり、「池沢さん、四月二十一日は永平寺へ十五条糞掃衣献上七年目に当ります。いろいろお世話になった黒田老師のことが思い出されます。折がございましたらよろしく」との事でした。もう七ヶ年がたつてしまいました。そして永平寺も監院様が南沢道人老師となり、道人老師により白純大和尚様の十七回忌の供養が厳修された。「成寿」に記されております。

道人老師の長男のご結婚が丁度七年前の四月二十一日、私共が永平寺上山の日でございます。成寿二十四号をお贈りいただき、色々な昔を思い浮かべこんなことを書いております。

月日の経つことは誠に早くセガレ紫山もアメリカ禅センターへ渡米したのが昭和五十六年、二年後帰国し結婚したのが五十八年五月でした。本年は長男が満十歳になり、月おくれの涅槃会に合せて四月十五日、出家得度の式を行いました。紫山も初めての受業師となり、父と子の立場で目出度く終らせていただき参列



した私共夫婦も感激一入でございまして。どれもこれもすべてが方丈様の御厚思と感謝申し上げます。



すばらしい『成寿』
一字一句尊く

保谷市 三矢記代

あじさいの花が雨にかがやく日々、先生にはお変わりなく

ご活躍の事と存じます。

先日の錦戸先生の御法要の折には、ありがたいお言葉を頂き、本当にありがたく心より感謝申し上げます。

すばらしい『成寿』二十四巻を頂き、誠にありがとうございました。「巻頭言」より「読者のたより」迄、ありがたく、一字一句尊く、黒田先生の温かく、やさしいそしてすばらしい人を思いやる情熱を感じさせて頂きながら、幸せな時間を過ごさせて頂きました。御本の中から開祖様の思いと同じ心が……

育英会にお掛けになる、先生の人を育て愛する情熱が一

字一字に、「なぜ留学僧育英会をつくったか」の章に黒田先生のハンサムなお写真と共にへ生かされていることに気づくので大変ものすごく感激致しました。そして何か本当にうれしい様な、ありがたい思いになりました。

私は学生時代、武蔵野女子大学（真宗）に学び、当時学生仏教音楽研究会のサークルに入っておりまして。週に一度、築地本願寺に、伊藤完夫先生のもとに駒沢、立正、大正、武蔵野の大学が合唱の練習に集まり、交流も致しておりました。私も駒沢大学には何回か行かせて頂き、棟方さ

ん（現在テレビ朝日のアナウンサー）や静岡県松永さん、仙台の清野さん等と役員もさせて頂いておりました。もしかして、黒田先生を皆さん御存知ではないかと思いました。又、雲道義道先生のお名前が

「読者のたより」に見付けました時、私の大学の学長先生でいらっしやいました。本当にうれしく（大変お世話になっておりましたので）何か深いご縁を思いました。

通度寺は、私も七年前佼成会の平和使節団として、八日間韓国に行かせて頂き、なつかしく、美しいカラーの写真の中に、再び新しい想い出が

よみがえって参りました。

黒田先生との出逢い！

『成寿』との出逢い！

私にとって本当に仏様のお配らいとして、心より感謝申し上げます。



